

## 『ガソリン値上げと中島みゆきと卑弥呼』の関係

みなさん、GW工事ご協力ありがとうございました。一筋縄ではいかない工事がたくさんあったと思いますが、みんなでアイデアを出し合いながら素晴らしいチームワークで乗り切っていただき、大変感謝しております。

今回も出張工事が何件かありましたが、頭が痛いのはガソリンの値上げです。  
120円がいきなり160円になる暴挙。どうなのでしょう・・・？  
根本的に何かがおかしいと思います。

先日、ファンの整備等でお世話になっている豊安工業さんの安全大会に出席してきたのですが、何と安全大会である『プロジェクトX』を上映されておりました。  
タイトルは『壁を崩せ 不屈の闘志 世界最大の船 火花散る闘い』でした。

昭和41年、当時世界のタンカーは欧米の石油会社に握られていて、石油の値段は欧米石油メジャーの言うがままの状態、そんな石油高に苦しめられていた日本人が言葉にならない悔しさの中で決意し、日本で消費する1日分の原油を運ぶことが出来る世界最大の巨大タンカーを造ることになる話なのですが、これがむちゃくちゃ感動もので、我々の人生の先輩達は戦争で失ってしまった希望や日本人としてのプライドを何とか取り戻そうと、必死で働いて(闘って)いたのだと、あらためて気づかせてもらいました。

そして何らかの大きな目的という使命感を持って働くことの熱さとか高揚感とか幸福感が昭和の時代には明らかにあったのだなあと感じました。

昔、戦争で捕虜になった人たちが課せられる強制労働の中で、一番きつい労働は、こっちの石ころをあっちに運んで、それが終わったらそっちに運んだ石ころをまたこっちに戻すという労働だったそうです。なぜならその労働にまったく意味がないからです。もし仮にこの石ころが自分たちの城のいしずえを築く為のものであったならまったく別だと思えますが。。。

平成時代の平和さと豊かさを享受している我々にとって、一期ごとに繰り返される売り上げ利益以外に、何を持って自分を鼓舞できるか、それを探し出すのが非常に難しい時代なのではないでしょうか？豊安工業さんがなぜ安全大会で『プロジェクトX』を上映されたのか分かるような気がします。

プロジェクトXの最後には中島みゆきの音楽『ヘッドライト・テールライト』がかかります。指揮する者も、現場を守る者も、まだ旅(闘い)は終わっていない、続いていると応援歌が歌われます。

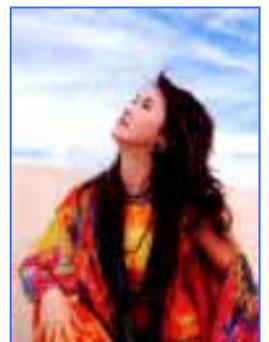
中島みゆきは不思議な歌手です。私は『現代の卑弥呼』だと思っています。中島みゆきは1970年代から2000年代にいたるまで10年ごとにオリコン1位を獲得しています。ずーと日本を応援している歌を歌い続けています。

たとえば、

『時代』 まわるまわるよ 時代はまわる 別れと出会いをくりかえし  
今日は倒れた旅人たちも生まれ変わって歩きだすよ

『ファイト!』 闘う君の唄を 闘わない奴等が笑うだろう  
ファイト! 冷たい水の中を ふるえながらのぼってゆけ

『地上の星』 草原のペガサス 街角のヴィーナス  
みんな何処へ行った 見守られることもなく  
つばめよ高い空から 教えてよ 地上の星を



そしてなんと言っても圧巻は、TOKIOが歌っていた『宙船(そらふね)』です。

是非中島みゆきバージョンで聴いてみてください。ギョーザ(中国)とガソリン(米国)との狭間で翻弄されている日本の行く末を案じて、叱咤激励する卑弥呼の叫びが聴こえます(必聴!!)

『宙船そらふね』

その船は今どこに ふらふらと浮かんでいるのか  
その船は今どこで ボロボロで進んでいるのか  
流されまいと逆らいながら  
船は挑み 船は傷み  
すべての水夫が恐れをなして逃げ去っても  
その船を漕いでゆけ おまえの手で漕いでゆけ  
おまえが消えて喜ぶ者に おまえのオールをまかせな



テクアの仕事もほとんどが自動車産業に関わっていますが、単に自動車の生産台数やシェアを世界と競うだけのものではなく、自動車製造の先に新しいエネルギー革命があり、万人が安価にエネルギーを消費でき、それが新しい農業技術とリンクし、世界の飢饉が解消されるような日本人の技術力とリーダーシップ力が発揮される時代がいつの日か到来する、そんな日の為のいしずえであればいいなあと思います。

感謝! 羽原篤史

